

名電学園新報

発行所
名古屋電気学園
愛知工業大学短期大学部
名古屋電気工業高等学校
愛知工業大学附属中学校
同窓会本部
名古屋千種区若水町1
TEL (721)0201・0311

昭和四十六年一月十六日(土)
第六回
名電工高
ブラスバンド定期演奏会
於 愛知県勤労会館

第三十回世界卓球選手権大会

悲願達成
愈々明春

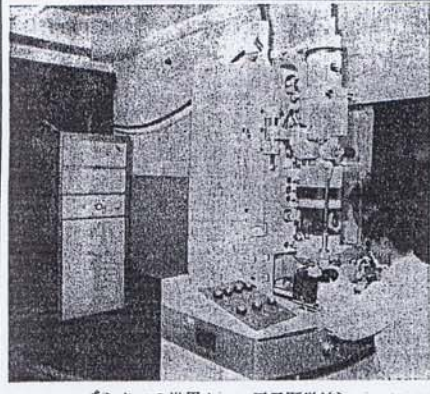
名古屋で開催



国際卓球連盟理事
アジア卓球連盟会長
愛知工業大学学長
後藤 鉦二 先生

西ドイツ、然しそれにもまして、そだ。前回のミュンヘン大会に日本選手団がまだかつてなかった総勢二十五名、議員の半数を役員でもって占めた。出発前「次回大会開催は必ず日本で」といふ悲願が後藤団長の胸の内にあつたからである。

第三十回開催地、西ドイツのミュンヘン市に於ける国際卓球連盟の最高会議である。二年に一度の総会では開催前各国代表は一九七一年大会の開催地の話題でもちりだつた。



【ミクロの世界を……電子顕微鏡】

道は限り無く長い
何処までも続く道
悲しい道
うれしい道
希望の道
歩いて来た道
その道を
歩き抜いてこそ
人間の
進歩が生まれる

愛知工業大学附属中学校
一年A組
遠藤 貴志

此の数年来、後藤日本卓球協会会長は数多くの国際大会で外国勢とラケットを交る度に毎に、卓球選手団がギリギリと勝負を筆頭に押されつつある情勢を自分の両眼でみ、「このままでは……これではいかん……」と日本卓球界の最高責任者としてその責務を人一倍痛い程に感じ

後藤団長国際卓球連盟で日本誘致を力説

最大の成功を取ったように名古屋大会が日本のスポーツの歴史の中にあつて、何れの競技種目を問わず、およそ世界選手権大会が東京を離れて地方で初めて開催されるだけに学園長をこの大会にバックアップすべく本学園関係者諸氏の協力なくつめたい支援を惜しみなく投入し、歴史に残る名古屋大会としようではないか。

大会準備着々進行

このことは外国勢の大半が日本開催を望んでいることも手伝おうが、何よりも後藤団長の胸には、七一年大会は何んとして日本で万が一、この機会を逸すようなことでもあらば今後十二年間は其の機会に恵まれないという背水の陣で総会に挑み力強く力説された以外ないと思ふ。

卓球界へ、カンフル

若者
三人の生命をかけたアポロ十一号の打ち上げは遂にその成功をみた。人類がこの地球に存在して以来、初めて月の表面に人間の足跡を残して来たのだ。

若者
勿論、この快挙には、芝居の黒衣のように約二五〇〇人のNASAのサイエントリスト、それに加わる五〇〇人近い民間会社の科学者達のブレインの結果ない支援を忘れてはならない。

岩井先生退職
学園と苦楽を共に三十五年

職された。大正十一年四月四日本学園に赴任され、途中中校に十六年間移籍あるも、三十五年間、常に学園理事長、後藤鉦二先生の片腕として日夜を分かたず活躍、また電気工学の教師として、数多くの電気技術者を世に送り、昨年、四月二十九日、天皇誕生日には氏の半生に亘る私学教育振興の功績が認められ、日本政府より、勲四等瑞宝章を受けられた。



(岩井廣一先生)

昭和四十六年度募集要項

愛知工業大学大学院
修士課程研究科目及び募集人員
電気工学専攻 五名
応用化学専攻 五名
願書受付期間
昭和四十六年二月二十日より三月十一日迄
試験期日
昭和四十六年三月一日

愛知工業大学第一部(昼)
学科学科 電子工学科
機械工学科 経営工学科
土木工学科 経営工学科
応用化学科 建築学科
願書受付期間
昭和四十六年一月十一日～二月一日
試験期日
昭和四十六年二月二十日～三月十一日
募集人員 各 八〇名
各 五〇名

愛知工業大学第二部(夜)
学科学科 機械工学科
願書受付期間
昭和四十六年一月十一日～三月一日
試験期日
二月二十日～三月十一日
募集人員 各 四〇名

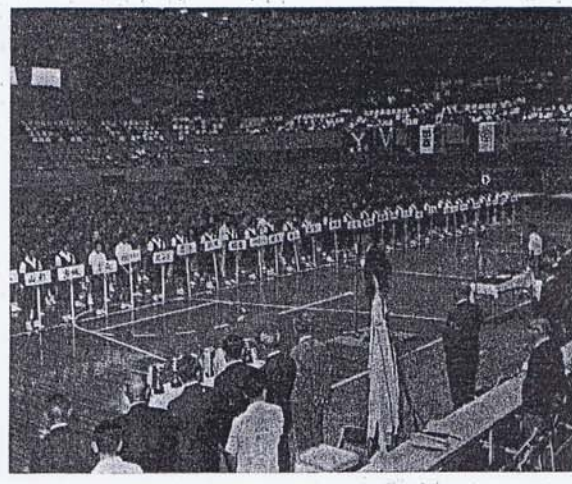
愛知工業大学短期大学部(夜二年制)
学科学科 電気工学科
学科学科 機械工学科
願書受付期間 四〇名
試験期日
第二部と同じ
第二部と同じ
第二部と同じ
全日同(昼間部)
普通科 一五〇名 電気科 三〇〇名
電子科 一〇〇名 機械科 一六〇名
願書受付期間
昭和四十六年二月一日～三月五日
試験期日
昭和四十六年三月七日
定時制(夜間部)
電気科 一五〇名 機械科 八〇名
願書受付期間
昭和四十六年二月一日～三月三日
試験期日
昭和四十六年三月一日(第一次募集)
昭和四十六年三月四日(第二次募集)
愛知工業大学附属中学校
募集人員 一〇〇名
願書受付期間 二月一日～二月二十七日
試験期日 二月二十八日
照会先
名古屋千種区若水町一ノ八
学校
名古屋電気学園
電話 七二一〇三〇一(代表)

まさにとの勝利

フェンシング部二年連続七度目優勝

昭和四十五年全国高等学校 総合体育大会総決算

70インターハイを競う



(全国各地からの精鋭が集い……愛知県体育館)

全国の高等学校体育界に於ける最大のイベント、昭和四十五年全国高等学校総合体育大会が全国各地より二万余の選手を参加を得て、近畿各県を中心に東海北陸の各会場に於いて七月二十七日パドミントンで幕を開けられた。

陸上に、水上に球技にいたっては全国最大の激戦地、愛知の代表権を堂々、六種目にわたり獲得、各会場にぞんだ。以下、本校の生徒諸君のはれの大会の戦果をここにまとめて紹介しよう。

卓球

八月四日開会式
八月五日から九日迄の五日
間、愛知県体育館で開催、
開会式では本大会二十年
連続出場表彰が行なわれ
我が名古屋電気工業高校は
東山高校と共に名譽の表彰
を受けた。

▼学校対抗
予選リーグ(六〇チーム参
加)

第一回戦
名電工5-1宇都宮商(栃
木)

第二回戦
名電工5-1仙三(宮城)

▲決勝リーグ

名電工	21	21	21	21	21
宇都宮商	1	1	1	1	1
仙三	1	1	1	1	1

▼男子シングルス

田村 2	2121	14	0	磁貝
金沢 2	2121	18	0	竹内

▼女子シングルス

田村 2	2121	14	0	磁貝
金沢 2	2121	18	0	竹内

全国の各地の子選
を勝ち抜いて来た
気鋭選手達に
大会は高校生にと
っては、最大の晴
れの舞台であり
又、この一戦にす
べてをかけてきた
一年間の総決算で
もあるわけだが、
どうしたところか今
年の我が校は昨年
の大勢九種目(卓球、フエ
ンシング、自転車、重量
相撲、バドミントン、庭球
目と)に較べると三
種目の減をみたものと
も例年と勝るとも劣ら
ぬ善戦をした、名電工の意
気、を全国に示した。

スバリ戦評

今年の王者を激しくせり
あつては距離、高山勢に
はまだまだ距離があるよう
だ。敗れはた竹内選手は
いずれにせよ、過去第一
回の一九五〇年大会以
来、愛知代表は団体戦
に、個人戦に於いて上位
三位までに入賞した経験は
一丁もない、しかし、この
ギャップの縮小にはそんな
に間をとらないのである。

竹内 2-1 奥木(柳井商)
第三回戦
名電工 3-1 日川(山梨)
第三回戦
加藤・菱田組 2-1 0
第二回戦
中村・阿部組 2-1 0
第一回戦
青山・黒川組(二年)
以下六名

▼学校対抗の部(四七校参加)

第一回戦
名電工シード

第二回戦
名電工 3-1 日川(山梨)

第三回戦
加藤・菱田組 2-1 0



バドミントン

本出場者は次の通り
加藤保利(三年)
中村修光(三年)
中村博(三年)
黒川準一(三年)
阿部博(三年)
青山忠雄(二年)

▼ロード・レース(団体戦)

三六チーム参加
第九位に入賞
大、岩崎、川島組
イアル(七六名参加)
岩崎竜己第二〇位
・レリス
大鹿隆司 予選にて失格
四〇〇〇米個人追抜競
技(二八名参加)

八月三日より五日、和歌山
県立高等体育館於
▼フェンシング
鈴木 満(三年)
奥田克己(三年)
大尾勝(三年)
坂崎敏也(三年)

八月六日、和歌山紀三井
寺競技場於
▼陸上競技
石田博(M三)
四六・〇米で堂々四位に
入賞

八月五日、京都市立
体育館於出場選手
鈴木 満(三年)
奥田克己(三年)
大尾勝(三年)
坂崎敏也(三年)

▼フエンシング部 これと
あつた進捗を容すことなく
間に優勝した昨年の優勝と
今年の優勝は何か共通点が
多く感じられた。

▼バドミントン部 大会の
トップを切つて展開された
本戦は、愛知代表権を保持し
ての同部にとつては、地
元の王者を激しくせり
あつては距離、高山勢に
はまだまだ距離があるよう
だ。敗れはた竹内選手は
いずれにせよ、過去第一
回の一九五〇年大会以
来、愛知代表は団体戦
に、個人戦に於いて上位
三位までに入賞した経験は
一丁もない、しかし、この
ギャップの縮小にはそんな
に間をとらないのである。

▼卓球部 今大会の焦点で
あった興國(大阪)は抽選
の結果名電工と同プロ
ック入り、折から場所の
大電選手は今大会で、NH
Kテレビ放送あり、事実上
の決勝戦であるだけにす
べての視線をこの試合に集
中された。

▼自転車競技
八月四・五・六・七日、鈴
鹿サーキット、松阪競輪場
出者
食橋光司(E三三)
大鹿隆司(E二二)
岩崎竜己(R二二)
川島和彦(M二二)
以下戦果は次の通り
▼スクラッチレース
(七一名参加)
食橋光司堂々第四位に入
賞

▼ロード・レース(団体戦)

三六チーム参加
第九位に入賞
大、岩崎、川島組
イアル(七六名参加)
岩崎竜己第二〇位
・レリス
大鹿隆司 予選にて失格
四〇〇〇米個人追抜競
技(二八名参加)

▼フェンシング
鈴木 満(三年)
奥田克己(三年)
大尾勝(三年)
坂崎敏也(三年)

中村・阿部組 2-1 0
能登・山崎(埼玉)
第四回戦(ベスト8決定
戦)
加藤・菱田組 0-1 2
青山・竹村組(石川)
中村・阿部組 0-1 2
呉・西川(奈良)

八月三日より五日、和歌山
県立高等体育館於
▼フェンシング
鈴木 満(三年)
奥田克己(三年)
大尾勝(三年)
坂崎敏也(三年)

八月六日、和歌山紀三井
寺競技場於
▼陸上競技
石田博(M三)
四六・〇米で堂々四位に
入賞

八月五日、京都市立
体育館於出場選手
鈴木 満(三年)
奥田克己(三年)
大尾勝(三年)
坂崎敏也(三年)

▼フルレ(七三名参加)
※予選リーグ
奥田、阿部、坂崎敏也の二名
出場、阿部共に各ブロック
第一位で決勝トーナメント
に進出
※決勝トーナメント
予選リーグ通過者十八名
通過者三八名参加
第一回戦
奥田 0-1 大川(湘南)
第二回戦
坂崎 2-1 山越(湘南)
第三回戦
坂崎 0-1 二山岸(鯖江)
準々決勝
坂崎 0-1 二山岸(仙三)
決勝
奥田 1-2 三浦(佐治)
従つて奥田はベスト八
▼サーベル(三三名参加)
※予選リーグ
鈴木 満 一名出場、第七ブ
ロック第一位で決勝トーナ
メントに進出
予選通過者の十六名
に参加
第一回戦
鈴木 2-1 藤井(盈進)
準々決勝
鈴木 2-1 松岡(立教)
決勝リーグ
決勝リーグの勝者四名でリ
ング戦
鈴木選手は〇勝三敗で惜し
くも第四位

奥田シード
第二回戦
奥田 1-2 佐々木(北陸)
準々決勝
奥田 1-2 三浦(佐治)
従つて奥田はベスト八
▼サーベル(三三名参加)
※予選リーグ
鈴木 満 一名出場、第七ブ
ロック第一位で決勝トーナ
メントに進出
予選通過者の十六名
に参加
第一回戦
鈴木 2-1 藤井(盈進)
準々決勝
鈴木 2-1 松岡(立教)
決勝リーグ
決勝リーグの勝者四名でリ
ング戦
鈴木選手は〇勝三敗で惜し
くも第四位